

2015年度 事業報告書

財団創設者 安藤百福の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念のもと、子どもたちの健全な心身の育成と、食文化の発展に貢献する公益事業を実施しました。

その概要につきまして、以下のとおりご報告いたします。

<公益目的事業>

- (1) 公1. 陸上競技支援事業
- (2) 公2. 自然体験活動支援事業
- (3) 公3. 食文化振興事業
- (4) 公4. 発明記念館運営事業
- (5) 共通. 青少年の健全育成を目的とする支援事業

<収益事業等>

- (1) 収1. 施設賃貸および物販等の業務受託

<公益目的事業>

■公1. 陸上競技支援事業

「未来ある子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせたい」という日本陸上競技連盟の考えに賛同し、走る楽しさ、仲間とふれあう喜びを広めることを目的に、全国の小学生を対象とする陸上競技大会を支援しています。

1. 小学生陸上競技大会等の後援事業

(1) 第31回全国小学生陸上競技交流大会の事業後援

子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせること、スポーツを通じた友情を育んでもらうことを目的に、全国の小学5年、6年生を対象とする陸上競技大会の都道府県代表を決定する地方大会と、決勝大会を後援しました。

1985年に「第1回全国少年少女リレー競走大会」としてスタートし、毎年約15万人の選手、指導者が参加しています。過去の本大会出場者の中から、末續慎吾選手（第8回大会出場）、高平慎士選手（第12回大会出場）が、2008年北京オリンピック男子4×100mリレーで銅メダルを獲得するなど、国際舞台で活躍する選手を多く輩出しています。

また、2012年のロンドンオリンピックでは、陸上競技日本代表選手46名の内、11名が小学生時代に本大会に出場しており、本大会は、いまや子どもたちにとって目標となる大会として定着し、日本陸上競技界の底辺の拡大に貢献しています。

【主催・後援】 主催：公益財団法人日本陸上競技連盟 後援：文部科学省他

【実施日】 ① 地方大会 2015年6月～7月
② 決勝大会 2015年8月21日(金)～22日(土)

【場所】 ① 地方大会 全国47都道府県の競技場
② 決勝大会 横浜・日産スタジアム

【参加者数】 約150,000人（選手、指導者、関係者）

【大会内容】 47都道府県の地方大会において、選手に入賞メダルや参加賞を贈呈。

決勝大会では、陸上競技の「走・跳・投」の3要素である100m走、80m

ハードル走、走幅跳、走高跳、ソフトボール投げ、4×100m リレーなどが実施され、その模様はNHK 教育（Eテレ）にて全国放送されました。

【事業費】 108,610,344 円

(2) 第18回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会の事業後援

全国の小学5年、6年生を対象とし、47都道府県の代表チームと、開催地大阪から推薦された3チームを加えた計50チームが参加するクロスカントリー大会と、前日に開催された研修会を後援しました。本大会は、発育途上の子どもたちが、身体に負担をかけない正しい長距離走を理解し、走法、呼吸法やトレーニング方法などを学ぶことを目的に、1999年からスタートしました。

本大会の第1回大会出場者の佐藤悠基選手が長距離の代表として、2012年開催のロンドンオリンピックに出場しました。

【主催・後援】 主催：公益財団法人日本陸上競技連盟 後援：文部科学省他

【実施日】 2015年12月12日(土)～13日(日)

【場所】 池田市民文化会館、万博記念公園内特設コース（大阪府吹田市）

【参加者数】 811人（一般タイムトライアル参加者も含む）

【研修内容】 ・小学生の練習によるからだへの負担について
・ジュニアアスリートの食事の基本について
・さまざまな運動をすることの大切さについて

【大会内容】 ・クロスカントリーリレー（1区間1.5km×6区間 男女交互のリレー）
・友好タイムトライアル、一般参加タイムトライアル

【事業費】 19,166,933 円

(3) 全国小学生陸上競技交流大会優秀選手研修会の実施

将来の有望選手としての意識・意欲づけと、その指導者に発育発達に応じた一貫指導の重要性を理解してもらうため、第31回全国小学生陸上競技交流大会で優秀な成績をおさめた選手を対象に研修会を実施しました。

【実施日】 2015年10月24日(土)～25日(日)

【場所】 横浜・日産スタジアム、横浜市スポーツ医科学センター 他

【参加者数】 選手・指導者 計33名

【ゲスト講師】 山縣 亮太 選手、福島 千里 選手、小川 沙里花 選手

【研修内容】 体力測定、栄養研修会、トップアスリートを迎えてのディスカッション

【事業費】 第31回全国小学生陸上競技交流大会事業費に含む

2. 少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」贈呈

子どもたちの健全な心身の育成には優れた指導者の存在が不可欠であるとの考えから、小学生の指導者を顕彰する少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」を、47都道府県から選出された指導者47名に贈呈し、今後の一層の活躍を期待して表彰しました。

【実施日】 2015年8月22日(土)

【事業費】 第31回全国小学生陸上競技交流大会事業費に含む

3. 「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」支援事業

当財団と公益財団法人日本陸上競技連盟は、陸上競技の若手アスリートの海外挑戦を支援する

「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」を、2015年9月、スタートしました。

オリンピックなど国際大会でメダル獲得を志す満16歳以上の実業団に属していない個人を対象とし、旅費、遠征費、海外居住費等を助成します。本プロジェクトを通じて、海外のトップアスリートと切磋琢磨し、海外での経験から、トップアスリートとして求められる資質を身につけ、将来、国際大会におけるメダリスト誕生を目指すことを目的とします。

【支援内容】

- ① 海外長期活動支援 海外大会の転戦、海外大学への進学、留学など
- ② 海外短期活動支援 長期休暇を利用した1～3ヶ月程度の海外合宿、短期留学など

【2015年度支援対象者】

① 海外長期活動支援（1名）

氏名	年齢	種目	活動期間	日数	活動拠点
戸邊 直人	23歳	走高跳	2015年11月3日～11月11日 2016年2月8日～2月28日	30日	エストニア

※故障による活動計画の変更に伴い、海外での活動期間を短縮しております。

② 海外短期活動支援（9名） ※高校、大学の春季休暇を利用して行う活動

氏名	年齢	種目	活動期間	日数	活動拠点
佐久間 滉大	19歳	走幅跳	2016年2月3日～3月4日	31日	アメリカ
高松 智美ムセンビ	16歳	長距離	2016年3月11日～4月7日	28日	アメリカ
桐生 祥秀	20歳	短距離	2016年3月14日～4月4日	22日	アメリカ
ウォルシュ ジュリアン	19歳	短距離	2016年3月19日～4月4日	17日	アメリカ
油井 快晴	20歳	短距離	2016年1月20日～2月20日	31日	イギリス
小池 祐貴	21歳	短距離	2016年2月1日～2月19日 2016年3月6日～3月30日	44日	アメリカ
藤田 溪太郎	18歳	走高跳	2016年1月27日～2月17日	22日	スウェーデン
田中 新也	22歳	110mH	2016年2年12日～4月18日	67日	アメリカ
川崎 和也	23歳	十種競技	2016年1月26日～2月22日 2016年3月8日～3月31日	52日	ドイツ アメリカ

※なお、海外短期活動支援に選考された岩本 武選手は故障のため支援を辞退しました。

【事業費】 12,951,376円

4. スポーツ全般におけるジュニアアスリート育成の後援事業

本事業は、青少年の健全な心身の育成を図るという目的のもと、公益財団法人日本オリンピック委員会に加盟する各競技団体を対象とし、全国的な組織またはそれに準ずる団体の活動を通じて、ジュニアアスリート育成を支援します。

2015年度は、公益財団法人日本テニス協会が主催する男子ジュニア育成プログラムを後援しました。国内開催の国際大会や、全国大会をはじめとする主要な大会から成績優秀者を選抜して行うナショナルジュニアキャンプ、トップジュニアキャンプ、海外遠征等を支援し、子どもたちが夢を実現する活動を応援します。

- 【参加者数】・ナショナルジュニアキャンプ 選手・指導者 133名（年14回開催）
- ・トップジュニアキャンプ 選手・指導者 83名（年代別に計3回開催）
 - ・海外遠征・合宿 選手・指導者 59名（全米オープンジュニア大会を含む14回）

【事業費】 16,200,000円

■公2. 自然体験活動支援事業

「自然とのふれあいが子どもたちの創造力を豊かにする」という安藤百福の考えのもと、財団設立以来、青少年の健全な心身の育成を目的に、子どもたちの「自活力」を育む自然体験活動の更なる普及と活性化に取り組んできました。

また、2010年5月、長野県小諸市にわが国初の専門施設「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター（略称：安藤百福センター）」を設立し、子どもたちを身近な自然に案内する指導者を育てる「上級指導者」の養成と指導カリキュラムの研究・開発を行っています。

1. 自然体験活動支援事業「第14回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の実施

「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」では、自然体験活動の企画案を公募し、応募総数230件の中から、ユニークで創造性に富んだ企画を立案した50団体を選考し、実施支援金各10万円を助成しました。

更に、助成した団体から提出された活動報告書を審査し、学校部門には文部科学大臣賞と優秀賞を、一般部門には安藤百福賞と優秀賞を選考し、表彰するとともに、各団体のユニークな活動を発表し、他団体の活動の参考としていただくことで、自然体験活動の活性化を図っています。

なお、今回助成した団体の活動には、延べ約21,000人が参加しました。

【後援】文部科学省、横浜市、横浜市教育委員会

【表彰団体】

◆ 学校部門

文部科学大臣賞（副賞：100万円）

団体名：たつの市立新宮小学校6年生（兵庫県）

企画名：人も自然も笑顔の楽園プロジェクト

優秀賞（副賞：50万円）

団体名：尼崎市立南武庫之荘中学校 動植物介在教育研究会（兵庫県）

企画名：尼崎の海と大地をつなぎ命の循環を学ぶ自然体験（尼崎の海への恩返し）

◆ 一般部門

安藤百福賞（副賞：100万円）

団体名：橋本ひだまり倶楽部（和歌山県）

企画名：『郷土の森』もっと知って、自然を活かして、不便を楽しむ!!

優秀賞（副賞：50万円）

団体名：久米島ホテルの会（沖縄県）

企画名：久米島・ホタルレンジャーがつむぐ、人とホテルの里づくり

◆ 推奨モデル特別賞（学校・一般部門共通）（副賞：各20万円）

自然体験活動のプランニングや指導方法、計画を実施に移す過程が、多くの学校や団体の参考モデルになると認められた企画に贈呈。

① 団体名：大阪市立新北島中学校 科学部（大阪府）

企画名：大阪市住之江区新北島地区のアリのモニタリング調査とアルゼンチンアリ（特定外来生物）の駆除

② 団体名：自然と文化の森協会・猪名川キッズクラブ（兵庫県）

企画名：子どもも、まちの主人公 ～水辺を丸ごと知り、楽しもう～

◆ トム・ソーヤー奨励賞（学校・一般部門共通）

企画内容がユニークで他団体への刺激や参考となり、更なる飛躍が期待できる企画に贈呈。

- ① 団体名：千里みらい夢学園 吹田市立桃山台小学校
（大阪府、委託：すいた体験活動クラブ）

企画名：ももっこ里山プロジェクト～全校の児童たちで生態園をさらに充実させよう～

- ② 団体名：町田市立鶴川第二小学校（東京都、委託：鶴川二小おやじの会）
企画名：地域に広げる！かぶとむし園・ホタル池 拡充活動
～学校ビオトープから里山復元に向けた子どもたちとの挑戦～

- ③ 団体名：NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラスト（北海道）
企画名：きりたっぷ子ども自然クラブ

【表彰式】開催日：2016年1月30日（土）安藤百福発明記念館 5階ホール

来賓：徳田 正一 氏（文部科学省 大臣官房審議官（生涯学習政策局担当））

田中 博章 氏（横浜市 こども青少年局長）

トークショー：「自然の中で生きる子どもたち」

近藤 謙司 氏（日本山岳ガイド協会認定国際山岳ガイド）

田中 陽希 氏（プロアドベンチャーレーサー）

【事業費】13,066,461円

2. 自然体験活動指導者養成事業

安藤百福センターを拠点に、自然体験活動の指導者を育てる「上級指導者」養成をはじめ、自然体験活動の底辺の拡大と更なる活性化を図る中心的な役割を果たしています。

【事業内容】

- ① 自然体験活動における上級指導者養成事業
- ② 自然体験活動及びアウトドア全般に係わる専門家等の養成・講習事業
- ③ 大学、大学院、専門学校等の自然・野外・観光・農業に係わる講義演習
- ④ 自然体験活動に係わる企業研修をはじめとする各種研修事業
- ⑤ 指導カリキュラムの研究・開発、紀要の発刊

【2015年度 主な事業】

- ① 上級指導者養成のための研修会の共催

NPO 法人自然体験活動推進協議会や公益社団法人日本環境教育フォーラム、公益社団法人日本山岳ガイド協会、国立青少年教育振興機構などが養成、認定する指導者研修を支援しました。

2015年度は、新たに326名が上級指導者に認定されました。

- ② 第5回浅間大学院生セミナーの主催

幅広い自然教育や環境教育の専門家を目指す学生たちの交流や、各大学の講義内容を情報交換することで、相互に研鑽、発展を図ることを目的に、各大学教員による講義、学生による研究発表、野外体験活動などを実施しました。

あわせて、2014年度の第4回本セミナーで、最優秀大学院生として米国ワイオミング州の自然学校「ティートン サイエンススクール」に短期留学した大学院生2名の報告会も行いました。

今回も分野を超えた交流を求めて、大学院生10名、教員4名の計14名が集い、

議論を行う意義が再確認され、環境への関心を共有する本セミナー参加者が日本の自然体験活動をリードしていくことを期待しています。

③ 自然学校職員研修会の主催

●新入職員対象

全国の自然学校（アウトドアでの教育活動などを行う団体等）に所属する新入職員を対象に、自然体験原論や環境教育論など教育に携わるものとしての基礎教養の習得や、コミュニケーションスキルの習得を目的とした研修会を、全国4会場にて開催し、70名が参加しました。

●中堅職員対象

自然学校の可能性を広げるために、事業の企画担当者（概ね3～10年の中堅職員）を対象に、「ビジネスマインドを鍛える」をコンセプトに、「自然系ビジネス・スタートアップセミナー」を開催し、45名が参加しました。

【事業費】 135,849,201円

3. ロングトレイルの普及、振興

子どもたちの自然体験の主な活動場所は、山、川、海や身近な森林やキャンプ場が中心であり、どのフィールドでも基本は「歩く」ことであると考えています。

また、健康と自然志向をベースとしたライフスタイルへの関心が高まる中、全国各地に「歩く旅」の受け皿となるロングトレイルの整備や計画が進んでいます。

これらのロングトレイルは、自然環境の適正利用による観光活性化や、地域社会への貢献を目的のひとつとしていますが、現状、国民的な理解や道標整備をはじめ、トレイルを一層発展させるためのシステムづくりや人材の育成が未成熟です。

そこで、当財団は、独自に4コース（全長40km）の浅間・八ヶ岳パノラマトレイル（旧安藤百福センタートレイル）を運営、管理するとともに、NPO法人日本ロングトレイル協会と連携し、自然とふれあう機会を創造するため、ロングトレイルの普及、振興を図りました。

◆ ロングトレイルの主な普及・振興活動

- ① 全国のトレイル運営機関、諸団体への情報提供と交流促進
- ② 全国のトレイルに関する広報活動およびトレイルを活用した観光促進
- ③ 標識、地図等の整備・トレイル運用基準の検討
- ④ トレイルを活用した青少年健全育成や生涯スポーツ促進

◆ 「第3回ロングトレイルシンポジウム」の共催

開催日：2016年2月20日(土)

参加者数：約130名

後援：観光庁、長野県他

来賓：長野県知事 阿部 守一氏

特別講演：「青少年教育とロングトレイル」

文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課長 坪田 知宏氏

記念講演①：「スペインの巡礼街道を歩く」

公益社団法人 日本山岳会 副会長 大久保 春美氏

記念講演②：「ロングトレイルを旅する」

バックパッカー・作家 シェルパ 斎藤氏

【事業費】 2. 自然体験指導者養成事業に含む

4. 小諸ツリーハウス プロジェクトの推進

安藤百福センターの森では、自然体験に興味がない人でも、「アート」をフックにして、豊かな自然にふれあってもらふことを目的に、著名なデザイナーや建築家がデザインした既存の枠にとらわれない自由な発想のツリーハウスを7棟展示し、自然体験活動の更なる普及と底辺の拡大を図りました。

また、春の「自然で楽しむアートフェス」、秋の「信州の収穫祭」と年2回、さまざまなアートや料理のワークショップを体験できるツリーハウスイベントを開催しました。信州の旬なものを味わえる飲食ブースやアーティストによる野外音楽ライブなど、「アート・アウトドア・食」が満喫できるイベントであり、春・秋とも約1,000名が参加しました。

【事業費】 2. 自然体験指導者養成事業を含む

5. 自然体験活動支援ホームページ「自然体験.com」の運営

自然体験活動に関する情報や専門家によるノウハウを満載しているホームページ「自然体験.com」は、学校完全週5日制が施行された2002年にスタートしました。当財団では、「自然体験.com」を通じて、保護者や指導に携わる方々へ自然体験に関する情報を提供し、子どもたちの「創造力」や「自活力」を育む自然体験活動の輪を広げる事業を行なっています。

また、「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の募集や、支援団体の活動状況を伝える速報レポート、活動報告書も掲載しています。

【URL】 <http://www.shizen-taiken.com>

【事業費】 7,624,925円

■公3. 食文化振興事業

1. 食創会「第20回安藤百福賞」表彰事業の主催

「食創会」は、1996年、「食創為世（食を創り世のためにつくす）」という安藤百福の理念に基づき、食品の基礎科学の研究奨励ならびに独創的・革新的な食品の生産加工技術の開発に対する支援・普及を通じて、世界の食文化の向上・発展に寄与することを目的に創設されました。

当財団が主宰する食創会「安藤百福賞」は、安藤百福がインスタントラーメンを発明し新しい食文化を創造したように、新しい食品の創造開発に貢献する研究者、開発者ならびにベンチャー起業家を表彰するものです。大賞や優秀賞のほか、2006年度に新設された発明発見奨励賞は、大学等に所属する若手研究者や中小企業の開発者を表彰対象としています。

また、第20回記念として、健康寿命の延伸に貢献する食品分野の基礎研究や食品開発で優秀な研究・開発を実施している研究・開発者を対象に「第20回記念特別奨励賞」を贈呈しました。

【後援】 文部科学省

【表彰者】

◆ 大賞（副賞：1,000万円）

- 大野 博司 氏（理化学研究所 統合生命医科学研究センター グループディレクター）
「腸内細菌が食物成分を分解して産生する代謝産物による腸管免疫系制御の分子メカニズムの解明」

◆ 優秀賞（副賞：200万円）

- 柴田 重信 氏（早稲田大学 先進理工学部 教授）
「時間栄養学の基礎と応用研究」

◆ 発明発見奨励賞（副賞：各 100 万円）

- 石丸 喜朗 氏（東京大学大学院 農学生命科学研究科 特任准教授）
「酸味受容体の発見」
- 中井 博之 氏（新潟大学農学部 応用生物化学科 准教授）
「ヒトの健康保持増進に有用な機能性オリゴ糖の製造開発」

◆ 第 20 回記念特別奨励賞（副賞：各件 100 万円）

- 鈴木 卓弥 氏（広島大学大学院 生物圏科学研究科 准教授）
「消化管上皮の細胞間経路の制御に着目した機能性食品の開発」
- 益崎 裕章 氏（琉球大学大学院 医学研究科 教授）
「玄米由来機能成分、 γ オリザノールの作用機構の分子栄養学的解明と生活習慣病予防・健康寿命延伸を目指す食品開発」
- 岸本 賢治 氏（株式会社キシモト 専務取締役）
平岡 芳信 氏（愛媛県産業技術研究所 食品産業技術センター センター長）
藤田 雅彦 氏（公益財団法人えひめ産業振興財団 専門員）
「骨までも柔らかく食べられる干物『まるとっと』の開発」
- 西道 隆臣 氏（理化学研究所 脳科学総合研究センター シニアチームリーダー）
「『次世代型アルツハイマー病モデル動物』を用いた認知症発症リスクを減少させる機能性食品の開発」
- 平林 義雄 氏（理化学研究所 脳科学総合研究センター シニアチームリーダー）
「糖脂質に対する新しいGPCR受容体と老化作用」

【表彰式・記念講演会】

開 催 日：2016 年 3 月 9 日(水) ホテルニューオータニ（東京）

来 賓：森山 裕 農林水産大臣
河村 建夫 衆議院議員

特 別 講 演：「小脳にみる脳の設計図」
伊藤 正男 氏（理化学研究所 脳科学総合研究センター 特別顧問、食創会 会長）

受賞記念講演：「時間栄養学の基礎と応用研究」
柴田 重信 氏（早稲田大学 先進理工学部 教授）
「腸内細菌が食物成分を分解して産生する代謝産物による腸管免疫系制御の分子メカニズムの解明」
大野 博司 氏（理化学研究所 統合生命医科学研究センター グループディレクター）

【研究助成】

第 20 回を記念して、「安藤百福賞」の受賞者の中から、さらに研究・開発の進展が期待される研究・開発者を対象に、2016 年度以降、研究助成を実施します。

<研究助成対象者>

助成対象者	助成金(総額)	研究期間	研究テーマ
大野 博司 氏	300 万円	2 年間	食事成分および腸内細菌が宿主免疫系に及ぼす影響の研究
柴田 重信 氏	300 万円	2 年間	腸内細菌に対するプレ・プロバイオティクスの効果の時間栄養学的視点による検証

助成対象者	助成金(総額)	研究期間	研究テーマ
石丸 喜朗 氏	300 万円	1 年間	塩味受容機構の解析
中井 博之 氏	300 万円	3 年間	ヒトの健康保持増進に有用な機能性オリゴ糖のライブラリー化
岸本 賢治 氏 平岡 芳信 氏	100 万円	2 年 10 ヶ月	骨まで食べられる干物「まるとっと」の品質保持向上に関する研究

【事業費】 36,370,993 円 ※研究助成については、2016 年度以降の事業費とします。

■公4. 発明記念館運営事業

「人間にとって一番大事なものは創造力であり、発明・発見こそが歴史を動かす」という安藤百福の考えに基づき、世界の食文化を変えたインスタントラーメンの誕生から、産業として世界に発展していった歴史を通じて、未来を担う子どもたちに発明・発見の大切さを伝え、「ベンチャーマインド」や「創造的思考＝“クリエイティブシンキング”」を育み、青少年の健全な心身の育成に寄与しています。

1. インスタントラーメン発明記念館（以下「池田記念館」）の運営

池田記念館は、1999 年 11 月にインスタントラーメン発祥の地・大阪府池田市に開館しました。2004 年 11 月、展示内容と体験工房を充実させる拡張新築を行い、2015 年 3 月、来館者増に対応するため、施設の拡充を目的とした第 3 期拡張工事を行いました。

2015 年度の来館者は 75 万人を超え、開館以来の累計来館者は 660 万人を突破しました。インバウンドによる来館者増のほか、総合学習や修学旅行など学校教育の場としての利用があり、2015 年度は 710 校、約 33,500 人の小中学生や高校生が来館し、体験型食育ミュージアムとして高く評価いただいています。

【施設概要】 所在地：大阪府池田市満寿美町 8 番 25 号

敷地面積：4,172 m²

延床面積：3,423 m²

【来館者数】 2015 年度来館者数 757,523 人（累計来館者数 6,611,719 人）

【体験者数】 チキンラーメンファクトリー 56,030 人

マイカップヌードルファクトリー 517,567 食

【事業費】 177,888,688 円

2. 安藤百福発明記念館（以下「横浜記念館」）の運営

横浜記念館は、2011 年 9 月、横浜市みなとみらいに開館しました。「創造的思考＝“クリエイティブシンキング”」をコンセプトに、安藤百福の言葉や思考、行動の本質を、現代アートの手法で表現し、世界に通じる新しい食文化や産業を生み出す原動力となった安藤百福の自由な発想、創造的な考え方を体験、体感できるミュージアムです。

発明・発見の楽しさ、食の大切さ、夢をもって自分で考える楽しさ、あきらめずに何かに取り組む大切さなど、子どもたちに伝えていきます。

2015 年度は 1,550 校、約 72,600 人の学校団体の利用がありました。

【施設概要】	所在地	： 横浜市中区新港 2 丁目 3 番 4 号
	敷地面積	： 4,000 m ²
	延床面積	： 9,883 m ²
【来館者数】	2015 年度来館者数	1,059,475 人（累計来館者数 4,708,284 人）
【体験者数】	チキンラーメンファクトリー	91,948 人
	マイカップヌードルファクトリー	813,159 食
	カップヌードルパーク	97,446 人
	ワールド麺ロード	451,626 食
【事業費】	488,741,167 円	

■共通. 青少年の健全育成を目的とする支援事業

1. 「生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2016」（主催：スポーツ庁他）の支援

「持続可能なスポーツ環境の創出に向けて」をテーマに開催された「生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2016—人・スポーツ・未来—」に協賛しました。

【開催日】 2016 年 2 月 5 日(金) ホテルハマツ（福島県郡山市）

【協賛金】 500,000 円

2. 「大研究！すごいぞ！インスタントラーメン」の発刊

子どもたちに発明・発見の大切さを伝え、豊かな創造性を育んでもらおうと、「まんが社会見学シリーズ」（講談社）において、安藤百福が発明したインスタントラーメンの秘密を紹介する「大研究！すごいぞ！インスタントラーメン」を 3 万冊発刊し、全国の小学校、図書館等に贈呈しました。

【事業費】 32,400,000 円

<収益事業等>

■施設賃貸および物販の業務受託

当財団が所有する発明記念館（池田記念館、横浜記念館）の一部を、物販コーナーとして賃貸しました。また、池田記念館においては、物販業務を受託しました。

【賃貸面積】 ① 池田記念館 324 m²（館全体の延床面積に占める割合：約 9%）

② 横浜記念館 115 m²（館全体の延床面積に占める割合：約 1%）

【事業費】 38,684,299 円

以上